

札幌市立大学助産学専攻科における3つの方針（3ポリシー）

札幌市立大学助産学専攻科における教育理念のもと、以下のとおり「アドミSSION・ポリシー（入学者受入の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」及び「ディプロマ・ポリシー（修了証授与の方針）」の3つの方針を定めています。

アドミSSION・ポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的としています。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりです。

【助産学専攻科が求める学生像】

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追究できる人

カリキュラム・ポリシー

助産学専攻科は、本学の理念を基盤に「助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を有する助産師」、「地域社会における母子保健の向上に貢献できる助産師」及び「人間性豊かな助産師」を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 授業科目は「基礎助産学」、「実践助産学」及び「統合助産学」の3つから構成する
- 2 「基礎助産学」は、助産の意義や助産師の責任・役割に関する知識、母子の健康支援に向けた助産診断技術を体系的に学修できるように、6つの授業科目を配置する
- 3 「実践助産学」は、幅広く助産師活動に必要な地域や施設における多様な母子への助産支援及び助産管理を、講義・演習・実習を通して学修できるように、9つの授業科目を配置する
- 4 「統合助産学」は、各種事例を多角的・研究的視点で分析し、助産実践に応用する能力及び研究論文を作成する能力の育成に向け、2つの授業科目を配置する

ディプロマ・ポリシー

本学の教育理念・教育目的に基づくカリキュラムを履修し、修了に必要な単位を修め、以下の能力を備えた学生に、修了を認定し修了証書を授与します。

- 1 助産に関する幅広い高度な知識を修得し、助産実践に活用できる
- 2 助産に特有な各種技術を修得し、助産実践に活用できる
- 3 助産師としての倫理的判断ができる
- 4 母子保健の現状を視野に入れ、その課題発見および解決に貢献できる
- 5 専門職として自己の課題を常に認識し、自己研鑽が継続できる

《目 次》

I	札幌市立大学の教育研究上の理念・特長・目的	1
II	助産学専攻科の教育課程	2
III	学事暦	8
IV	授業科目及び単位数	10
V	自己評価	12

I 札幌市立大学の教育研究上の理念・特長・目的

《 理 念 》

●人間重視を根幹とした人材の育成

デザイン学及び看護学は、人間を対象とした学問領域であり、「人間重視」を基本とし、安全で快適な暮らしを創造できる職業人を育成する。

●地域社会への積極的な貢献

「市民に開かれた大学」、「市民の力になる大学」、「市民が誇れる大学」の3つの視点を掲げ地域貢献という使命を果たす。

《 特 長 》

●デザインと看護の連携

デザイン学部と看護学部が連携・共同して、保健・医療・福祉分野を対象とする課題を共同研究する。

●幅広いネットワーク

市民、産業界、公的機関などと連携することにより、地域課題に対応した教育を行う。

《 目 的 》

●学術研究の高度化に対応した職業人の育成

デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を基本とし、デザイン分野では幅広いデザイン能力を持った職業人を、看護分野では医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し他職種と連携できる職業人を育成する。

●まちづくり全体により大きな価値を生み出す

「知と創造の拠点」の形成

産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへ貢献するとともに、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。

札幌市の行政施策との緊密な連携によって、地域課題の解決に積極的に取り組む。

Ⅱ 助産学専攻科の教育課程

1 助産学専攻科の特色

本専攻科では、学士課程 4 年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程をその特徴としています。その一つとして選択科目は設定していません。これは学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創るためです。加えて、この学びの更なる発展に向け助産学課題研究を行ないます。

また、一年間の学修では助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、各種事例に対応できるよう高度な知識・技術を、熟練した助産師と専門医のもとで学修します。この学修では看護師資格が大いに役立ちます。

さらに、本学看護学部で既に取り組んでいる客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination、略称：OSCE) を助産学にも採用し、助産師活動に特有な各種助産技術能力の正確な修得を目指します。

2 教育目的

本専攻科の教育目的は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成です。

これは、札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤としています。

なお、この教育目的の達成に向け、授業科目は①基礎助産学(6 科目：11 単位)、②実践助産学(9 科目：18 単位)*、③統合助産学(2 科目：3 単位)の、計 17 科目(32 単位)で構成しています。

* 実践助産学「助産学実習」では、保健師助産師看護師学校養成所規則「実習中、分べんの取扱いについては、助産師又は医師の監督の下に学生一人につき十回程度行わせること」に基づく実習を行ないます。

3 学習目標

1) 一般目標：学習終了時に期待される成果

- 1) 助産師に必要な基本的かつ高度な知識を理解する。
- 2) 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術を身につける。
- 3) 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアを実施する。

(1) 学内演習において：各種シミュレーションを用いて、助産ケアを実施する。

(2) 臨地実習において：助言を受けながら、助産ケアを実施する。

2) 行動目標：一般目標を達成するために身に付けておくべき実践的能力

- ・「助産師の卒業時の到達目標と到達度(案)」参照

4 資格の取得

本専攻科の修了により、「助産師国家試験の受験資格」および「受胎調節実地指導員の資格」が取得できます。

この受胎調節実地指導員は、母体保護法第15条（受胎調節の実地指導）に定めのある制度です。受胎調節の実地指導を行うことのできる助産師・保健師・看護師のいずれかの有資格者をいい、国家資格です。この資格取得には、厚生労働大臣の定める基準に従って、都道府県知事の認定する講習を修了することが必要です。本専攻科の教育課程を修了した時点で、「認定講習修了証明書」を交付します。

■助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標

※実践については、看護職員や教員の指導の下で行う

実践能力	卒業時の到達目標			助産学総論	周産期医学論	乳幼児支援論	妊娠期診断技術学	分娩期診断技術学	産褥期診断技術学	フイールド演習	周産期ハイリスク援助論	助産学実習	地域母子保健論	助産管理論	助産学演習	助産学課題研究
	大項目	中項目	小項目													
I.助産における倫理的課題に対応する能力	1.母子の命の尊重	1	母子両者に関わる倫理的課題に対応する													
II.マタニティケア能力	2.妊娠期の診断とケア	A.妊婦と家族の健康状態に関する診断とケア	2 妊娠の診断プロセスを理解し、適切な診断方法を選択する													
			3 妊娠週数及び分娩予定日を推定する													
			4 妊娠経過を診断する													
			5 身体的・心理的・社会的・文化的側面から妊婦の健康状態を診断し、必要なケアを行う													
			6 妊婦や家族へ出産準備・親役割獲得の支援を行う													
			7 妊娠経過から分べん・産じょくを予測し、予防的観点から日常生活上のセルフケアを促す支援を行う													
			8 ベリネイタル・ロスを経験した妊産婦と家族へのグリーフケアを理解する													
		B.出生前診断に関わる支援	9 夫婦等が出生前診断の意思決定ができるよう支援する													
		C.ハイリスク妊婦への支援	10 ハイリスク妊婦の状態をアセスメントし、重症化予防の観点からの支援を行う													
	3.分べん期の診断とケア	D.正常分べん	11 分べん開始を診断する													
			12 破水を診断する													
			13 分べんの進行状態を診断する													
			14 産婦と胎児の健康状態を診断する													
			15 分べん進行に伴う産婦と家族のケアを行う													
			16 経膈分べんを介助する													
			17 出生直後から早期母子接触・早期授乳を行い、愛着形成を促す													
			18 産婦とともにパースレビューを行う													
			19 分べん進行に伴う異常を予測し、予防的なケアを行う													
		E.異常状態	20 異常発生時の母子の状態から必要な介入を判断し、実施する													
			21 正常範囲を超える出血の診断を行い、必要な処置を理解する													
			22 帝王切開前後のケアを行う													
	4.新生児の診断とケア		23 新生児の胎外生活への適応の診断とケアを行う													
	5.産じょく期の診断とケア	F.じょく婦の診断とケア	24 産じょく経過に伴う生理的变化を診断し、予防的ケアを行う													
			25 身体的・心理的・社会的・文化的側面からじょく婦の健康状態を診断し、必要なケアを行う													
			26 産後うつ症状を早期に発見し、支援する													
			27 じょく婦のセルフケア能力を高める支援を行う													
			28 育児に必要な基本的知識を提供し、技術支援を行う													
			29 新しい家族としての児への愛着形成を支援する													
			30 1か月健康診査までの母子の状態をアセスメントし、母子と家族を支援する													
			31 母乳育児に関する知識及び技術を提供し、乳房ケアを行う													
			32 授乳について自己選択ができるよう支援する													
			33 児の虐待ハイリスク要因に対する予防的な支援の必要性を理解する													
		G.ハイリスク母子のケア	34 心理的危機状態にある家族を支援する													
			35 母子分離の状態にある児や家族を支援する													
	6.出産・育児期の家族ケア		36 新しい家族システムの状態をアセスメントし、支援方法を理解する													
	7.地域母子保健におけるケア		37 地域社会の資源や機関を活用できるよう支援する													
			38 産後4か月程度までの母子の健康状態をアセスメントする													
			39 母子をとりまく保健・医療・福祉関係者と連携及び協働し、母子や家族への支援を行う													
			40 母子が居住する地域で提供されている母子保健活動を理解する													
			41 地域組織・当事者グループ等の活動の必要性を理解する													
			42 災害時の母子への支援を理解する													
	8.助産業務管理	H.法的規定	43 法令に基づく助産師の業務を理解する													
		I.周産期医療システムと助産	44 周産期医療システムの運用と地域連携を行う必要性を理解する													
			45 病院・診療所・助産所等の場に応じた助産業務管理の特徴を理解する													
III.ウィメンズヘルスケア能力	9.ライフステージ各期の性と生殖のケア（マタニティステージを除く）	J.思春期の男女への支援	46 思春期のセクシュアリティ発達を支援する													
			47 妊娠可能性のあるケースへの支援を理解する													
			48 二次性徴に関する正しい知識の獲得及び対応を理解する													
			49 月経障害による症状緩和のセルフケアに必要な支援を行う													
			50 性感染予防の啓発を理解する													
		K.女性とパートナーに対する支援	51 教育関係者及び専門職との連携や家族への支援を理解する													
			52 家族計画（受胎調節法を含む）に対する支援を行う													
			53 互いを尊重したパートナーとの関係の構築を啓発し、DV（性暴力等）を予防する支援を理解する													
			54 DV（性暴力等）被害の早期発見と相談者への支援を理解する													
			55 性感染症罹患の予防に関する啓発活動を他機関と連携する必要性を理解する													
		L.不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援	56 生活自立困難なケースに対して提供する妊娠・出産・育児に関する社会資源の情報及び支援を理解する													
			57 不妊治療を受けている女性・夫婦・カップル等の自己決定に向けた支援を理解する													
			58 不妊治療を受けている女性・夫婦・カップル等に対して提供する不妊検査・治療等の社会資源の情報及び支援を理解する													
		M.中高年女性に対する支援	59 家族を含めた支援と他機関と連携する必要性を理解する													
			60 健康的なセクシュアリティ維持に関する支援と啓発を行う													
			61 中高年の生殖器系に関する健康障害の予防策や日常生活に対する支援を理解する													
IV.専門的自律能力	10.助産師としてのアイデン		62 加齢に伴う生理的变化やQOLの維持・向上に向けた支援を理解する													
			63 助産師としてのアイデンティティを形成する													

出典：厚生労働省「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて」 令和 2 年 10 月 30 日

■助産師教育の技術項目と卒業時の到達度 卒業時の到達レベル

- < 演習 >
- Ⅰ：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる
- Ⅱ：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
- < 実習 >
- Ⅰ：単独で実施できる
- Ⅱ：指導の下で実施できる
- Ⅲ：実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類		卒業時の到達度		演習	演習	演習	演習	講義内 演習	実習	演習
			演習	実習	妊娠 期診 断技 術学	分娩 期診 断技 術学	産褥 期診 断技 術学	フイ ー ルド 演 習	周産 期ハ イリ スク 援助 論	助産 学実 習	助産 学演 習
1.妊婦健康診査に係る手技	1	レオポルド触診法	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ					Ⅰ	
	2	子宮底及び腹囲測定	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ					Ⅰ	
	3	ザイツ法	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	
	4	胎児心音聴取	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ					Ⅰ	
	5	内診	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	
	6	ノンストレステストの実施	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ					Ⅰ	
	7	経腹超音波を用いた計測	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ				Ⅲ	
2.分べん進行の診断に係る手技	8	分娩監視装置の装着	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	
	9	内診	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	
3.分べん介助に係る手技	10	分娩野の作成	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	11	肛門保護	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	12	会陰保護	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	13	最小周囲径での児頭娩出	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	14	肩甲娩出	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	15	骨盤誘導線に沿った体幹の娩出	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	16	臍帯巻絡の確認	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	17	臍帯結紮及び切断	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	18	新生児の自発呼吸の確認及び蘇生	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	Ⅰ
	19	適切な方法での胎盤娩出	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	20	胎盤の確認	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ				Ⅰ	Ⅰ
	21	軟産道の状態の確認	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	Ⅰ
	22	子宮収縮状態の確認	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ			Ⅰ	Ⅰ
	23	出血の状態の確認	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ	Ⅰ			Ⅱ	Ⅰ
	24	児及び胎児附属物の計測	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	
	25	分べんに係る記録の記載	Ⅰ	Ⅱ		Ⅰ				Ⅱ	
4.異常発生時の母子への介入に係る手技	26	胎児機能不全への対応	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ				Ⅲ	
	27	産科危機的出血への処置	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ				Ⅲ	
	28	産婦に対する一次救命処置 (BasicLifeSupport：BLS)	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ				Ⅲ	
	29	会陰切開及び裂傷後の縫合	Ⅱ	Ⅲ		Ⅱ				Ⅲ	
	30	新生児蘇生法の実施	Ⅱ	Ⅲ					Ⅱ	Ⅲ	

2025年度 札幌市立大学 学事暦【助産学専攻科】

週数	月	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		日曜日	
1	4月			1		2		3	入学式	4	ガイダンス	5		6	
2		7		8		9		10		11		12		13	
3		14	健康診断	15		16		17		18		19		20	
4		21		22		23		24		25		26		27	
5		28		29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日
6	5月	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10		11	
7		12		13		14		15		16		17		18	
8		19		20		21		22		23		24		25	
9		26		27		28		29		30		31		1	
10	6月	2		3		4		5		6		7		8	
11		9		10		11		12		13	定期(筆記)試験	14		15	
12		16		17	定期(技術)試験	18		19	再(技術)試験	20		21	専攻科説明会・オープンキャンパス	22	
13		23	助産学実習	24		25		26		27		28		29	
14		30		1		2		3		4		5		6	
15	7月	7		8		9		10		11		12		13	
16		14		15		16		17		18		19	D編入学・博士前期課程推薦入試・専攻科学内選抜	20	
17		21	海の日	22		23		24		25		26		27	
18		28		29		30		31		1		2		3	
19	8月	4	夏季休業開始	5		6		7		8		9		10	
20		11	山の日	12		13		14		15	夏季一斉休業	16		17	
21		18		19		20		21		22	夏季休業終了	23		24	
22		25	ガイダンス追・再試験	26	追・再試験	27	追・再試験	28		29		30		31	
23	9月	1	助産学実習	2		3		4		5		6	専攻科一般選抜	7	
24		8		9		10		11		12		13		14	
25		15	敬老の日	16		17		18		19		20	(芸森C)大学祭オープンキャンパス	21	(桑園C)大学祭
26		22		23	秋分の日	24		25		26		27	D・N博士前期課程入試	28	
27		29		30		1		2		3		4		5	
28	10月	6		7		8		9		10		11	D総合型選抜	12	
29		13	スポーツの日	14		15		16		17		18		19	
30		20		21		22		23		24		25		26	
31		27		28		29		30		31		1		2	
32	11月	3	文化の日	4		5		6		7		8		9	
33		10		11		12		13		14		15		16	
34		17		18		19		20		21		22	D・N学校推薦型選抜・社会人特別選抜	23	勤労感謝の日
35		24	振替休日	25		26		27		28		29		30	
36	12月	1		2		3		4		5		6		7	
37		8		9		10		11		12		13	N公衆衛生学内選抜・一般選抜	14	
38		15		16		17		18		19		20		21	
39		22	冬季休業開始	23		24		25		26		27		28	
40		29		30		31		1	元日	2	冬季休業終了	3		4	
41	1月	5		6		7		8		9		10		11	
42		12	成人の日	13		14		15	助産学OSCE	16		17	(大学入学共通テスト)	18	(大学入学共通テスト)
43		19	助産学実習(再・補充)	20		21		22		23		24		25	
44		26	助産学実習(再・補充)	27		28		29		30		31		1	
45	2月	2		3		4		5		6		7	N博士後期課程入試	8	
46		9	スキルアップ週間	10	スキルアップ週間	11	建国記念の日	12	助産師国家試験(仮)	13	助産学課題研究報告会	14	D博士後期課程入試	15	
47		16		17		18		19		20		21		22	
48		23	天皇誕生日	24		25	学部一般前期・D留学生入試	26	修了判定会議 春季休業開始	27		28		1	
49	3月	2		3		4		5		6		7		8	
50		9		10		11		12		13		14		15	
51		16		17		18		19	修了式	20	春分の日	21		22	
52		23		24		25		26		27		28		29	
53		30		31											

長期休業期間、祝日

IV 授業科目及び単位数

区分	科目 ナンバリング	授業科目の名称	授業形態	単位数 (全科目：必修)
基礎 助産学	M1A601	助産学総論	講義	2
	M1A602	周産期医学論	講義	2
	M1A603	乳幼児支援論	講義	2
	M1A604	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	M1A605	分娩期助産診断・技術学	演習	3
	M1A606	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践 助産学	M1A621	助産学フィールド演習	演習	1
	M1A622	周産期ハイリスク援助論	講義	2
	M1A623	地域母子保健論	講義	2
	M1A624	助産管理論	講義	1
	M1A625	助産学実習Ⅰ	実習	3
	M1A626	助産学実習Ⅱ	実習	3
	M1A627	助産学実習Ⅲ	実習	3
	M1A628	助産学実習Ⅳ	実習	2
	M1A629	助産学実習Ⅴ	実習	1
助産学 統合	M1A641	助産学演習	演習	1
	M1A642	助産学課題研究	演習	2
		合計		32

V 自己評価

■助産師教育の技術項目と卒業時の到達度 卒業時の到達レベル

- < 演習 >

I : モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

II : モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる
- < 実習 >

I : 単独で実施できる

II : 指導の下で実施できる

III : 実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類	卒業時の到達度		4月 6月	7月 9月	10月 12月	1月 3月
1.妊婦健康診査に係る手技	1	レオポルド触診法	I				
	2	子宮底及び腹囲測定	I				
	3	ザイツ法	I				
	4	胎児心音聴取	I				
	5	内診	I				
	6	ノンストレステストの実施	I				
	7	経腹超音波を用いた計測	II				
2.分べん進行の診断に係る手技	8	分娩監視装置の装着	I				
	9	内診	I				
3.分べん介助に係る手技	10	分娩野の作成	I				
	11	肛門保護	I				
	12	会陰保護	I				
	13	最小周囲径での児頭娩出	I				
	14	肩甲娩出	I				
	15	骨盤誘導線に沿った体幹の娩出	I				
	16	臍帯巻絡の確認	I				
	17	臍帯結紮及び切断	I				
	18	新生児の自発呼吸の確認及び蘇生	I				
	19	適切な方法での胎盤娩出	I				
	20	胎盤の確認	I				
	21	軟産道の状態の確認	I				
	22	子宮収縮状態の確認	I				
	23	出血の状態の確認	I				
	24	児及び胎児附属物の計測	I				
	25	分べんに係る記録の記載	I				
4.異常発生時の母子への介入に係る手技	26	胎児機能不全への対応	II				
	27	産科危機的出血への処置	II				
	28	産婦に対する一次救命処置 (BasicLifeSupport : BLS)	II				
	29	会陰切開及び裂傷後の縫合	II				
	30	新生児蘇生法の実施	II				

